

社会情勢の変化にかか る 数値データ

目次

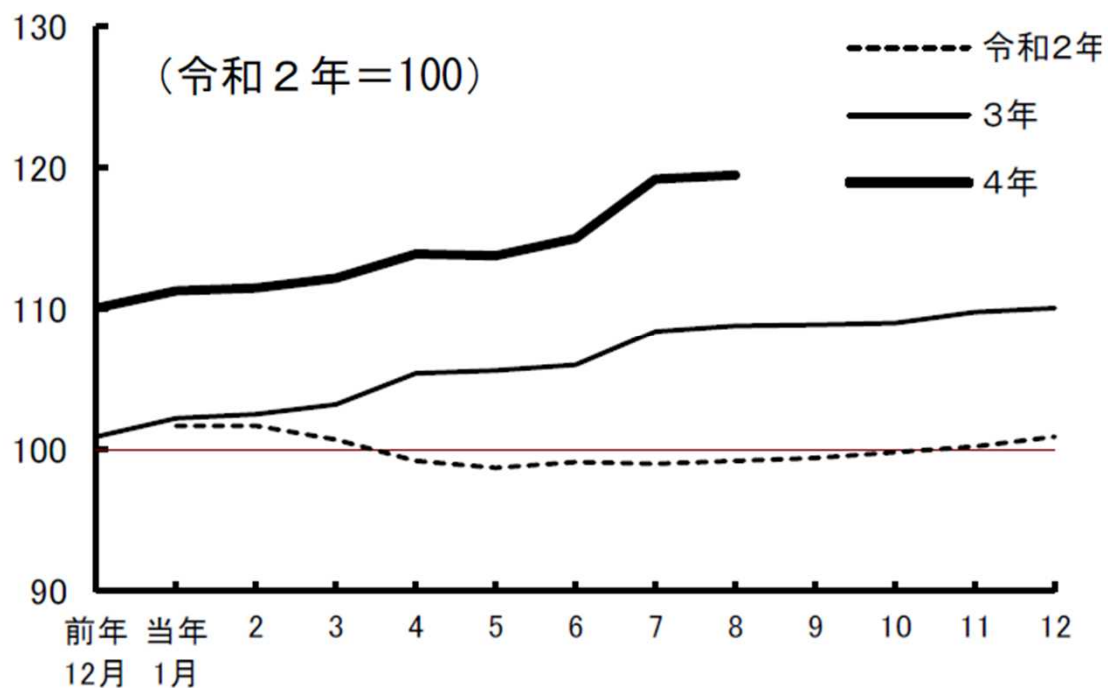
- 1 肥料・飼料・資材高騰の状況
- 2 食料自給率の推移
- 3 物価（食料品）の推移
- 4 田園回帰、地方移住への動き
- 5 消費傾向の変化
- 6 有機農業、環境創造型農業の実施状況
- 7 気候変動

1 肥料・飼料・資材高騰の状況

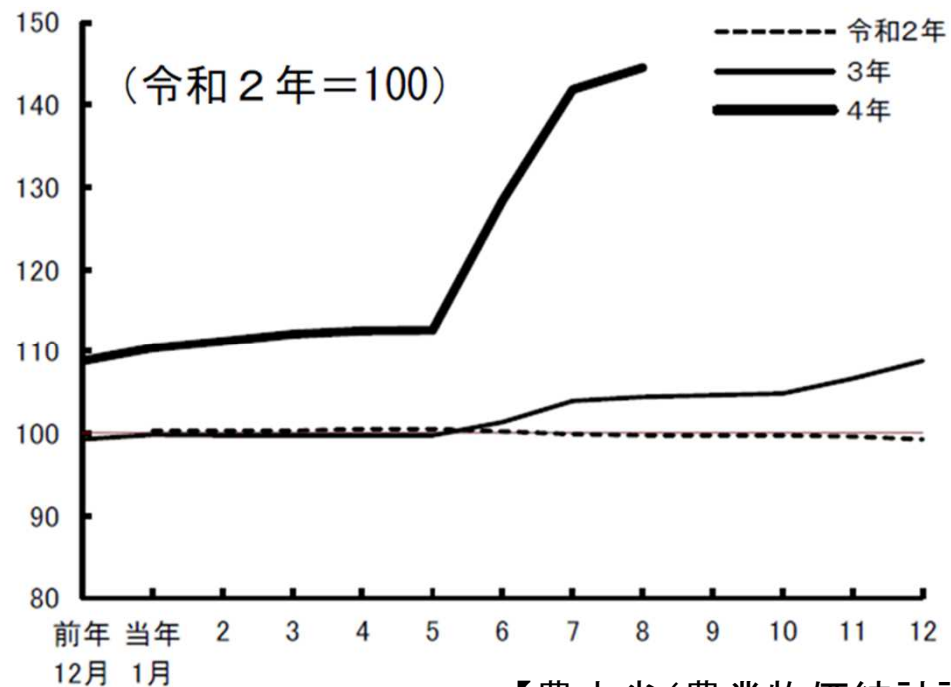
生産資材の総合的な価格指数は、令和2年末以降上昇しており、令和4年8月で119.5(令和2年=100)。

肥料については、令和4年6月頃以降急激に上昇しており、令和4年8月で144.5(令和2年=100)。

農業生産資材価格指数



農業物価指数(肥料)

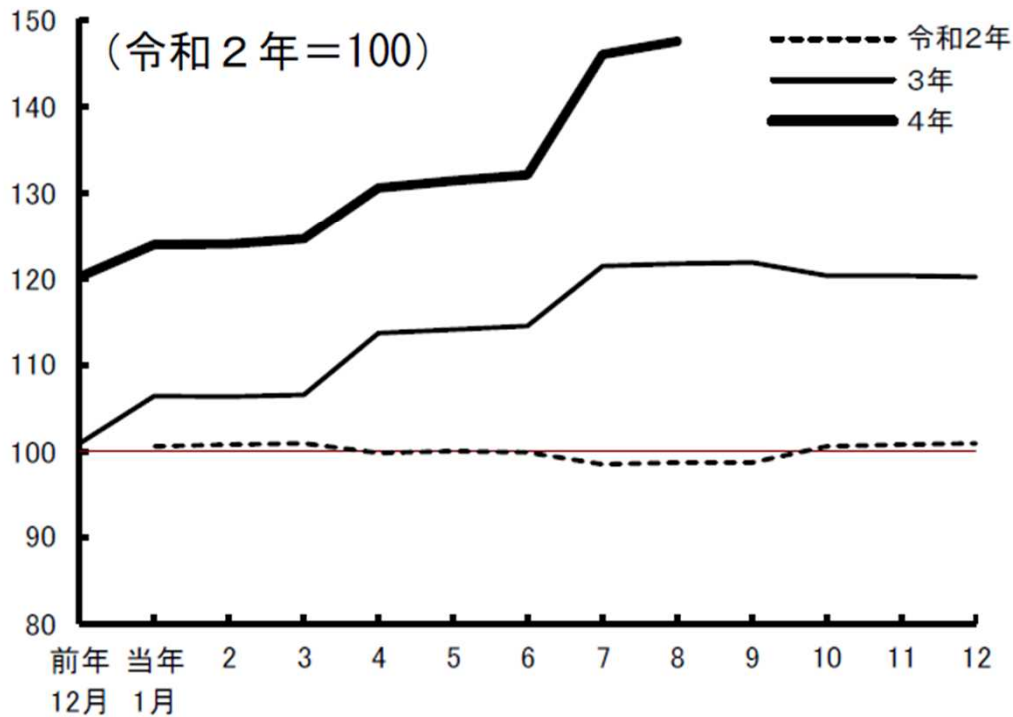


【農水省(農業物価統計調査)】

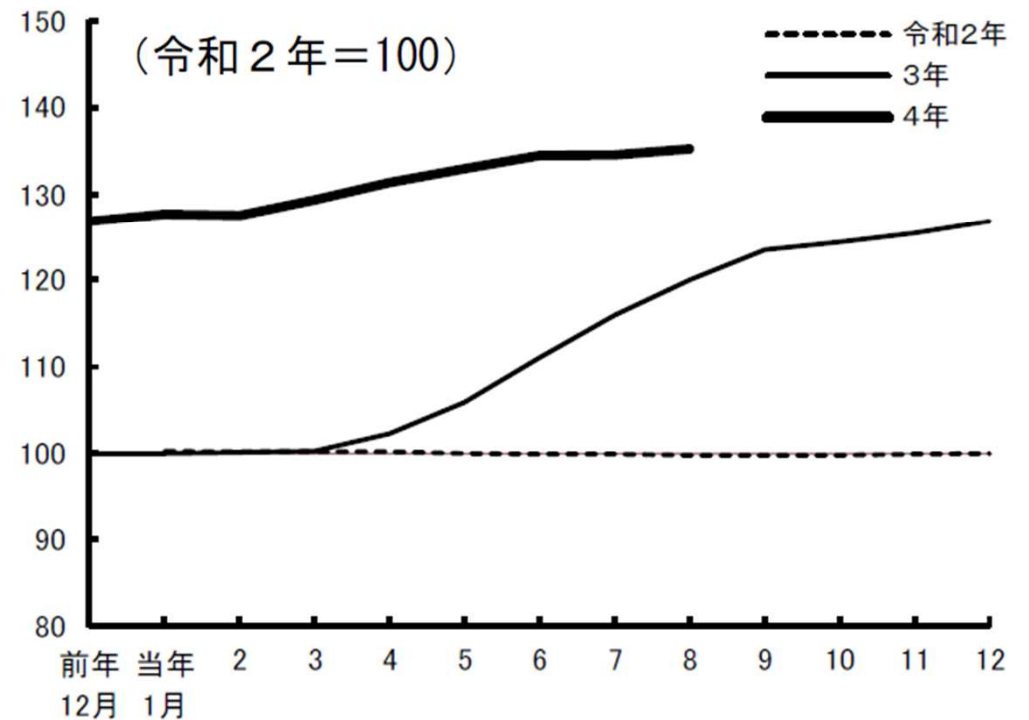
飼料については、令和3年1月以降大きく上昇しており、令和4年8月で147.5(令和2年=100)。

建築資材については、令和3年4月以降に大きく上昇しており、令和4年8月で135.2(令和2年=100)。

農業物価指数(飼料)



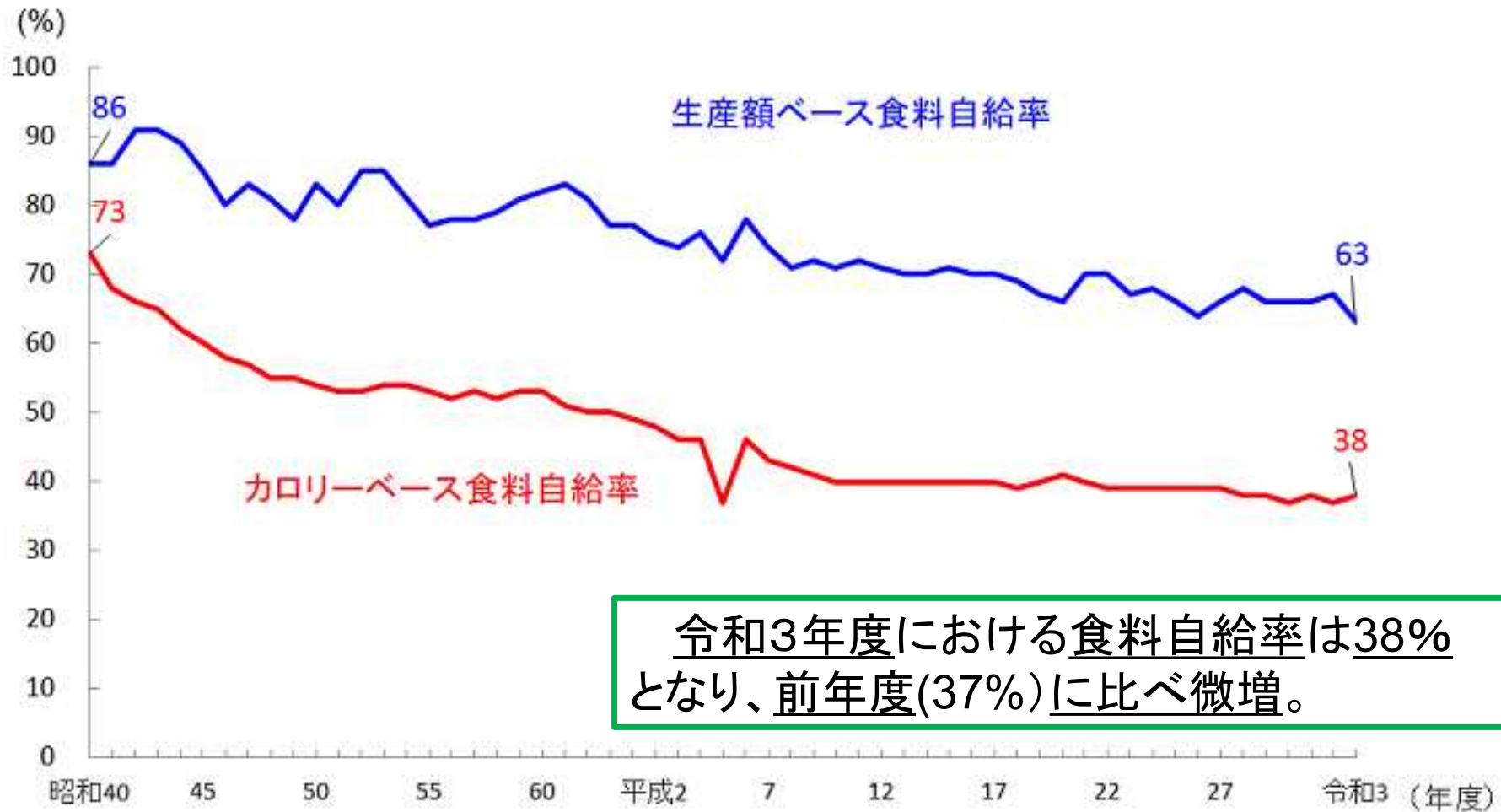
農業物価指数(建築資材)



【農水省(農業物価統計調査)】

2 食料自給率の推移

昭和40年度以降の食料自給率の推移



令和3年度における食料自給率は38%
となり、前年度(37%)に比べ微増。

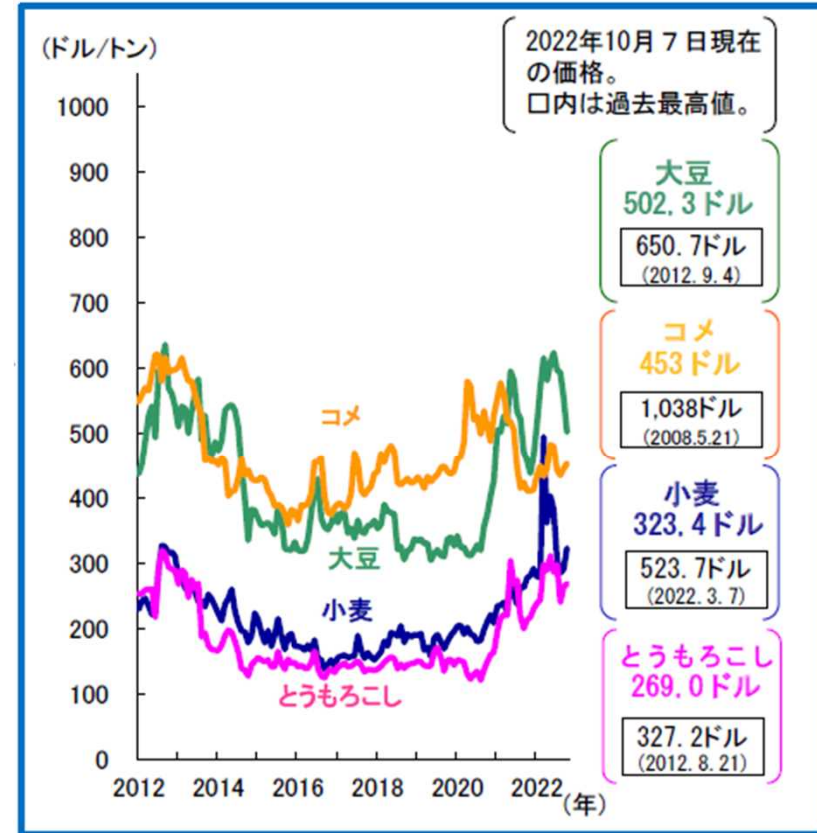
3 物価（食料品）の推移

(1) 穀物等の国際価格の動向

2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年に入り、ウクライナ情勢が緊迫化する中、小麦は史上最高値を更新。

コメは、2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

穀物等の国際価格の動向



コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米

取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

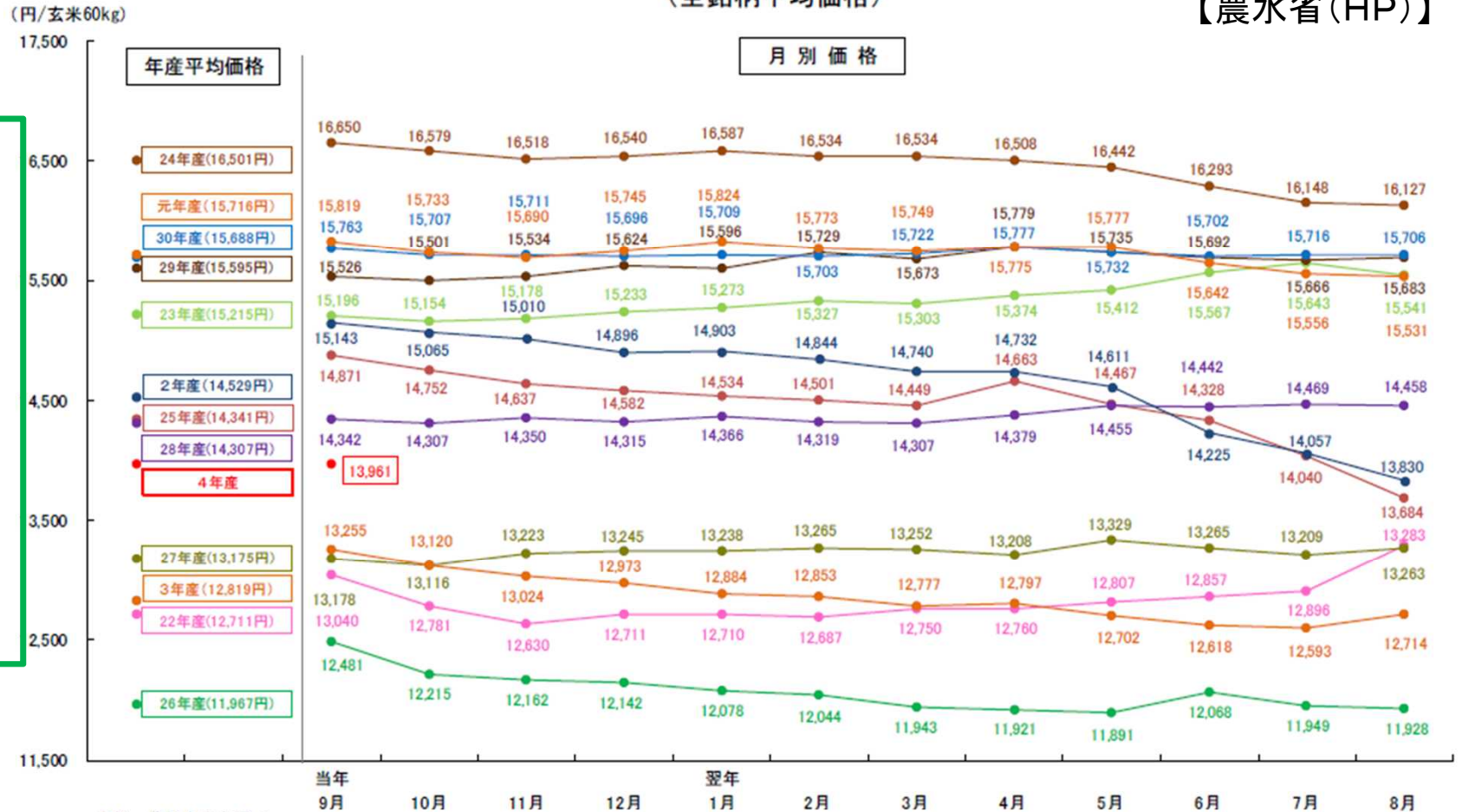
【農水省(食料安全保障月報)】

3 物価（食料品）の推移

(2) 米の相対取引価格

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）

【農水省(HP)】



令和4年産米の
令和4年9月の相
対取引価格は、全
銘柄平均で13,961
円/60kg。
令和3年産の通
年平均価格12,819
円/60kgより
+1,142円/60kg。

資料：農林水産省調べ

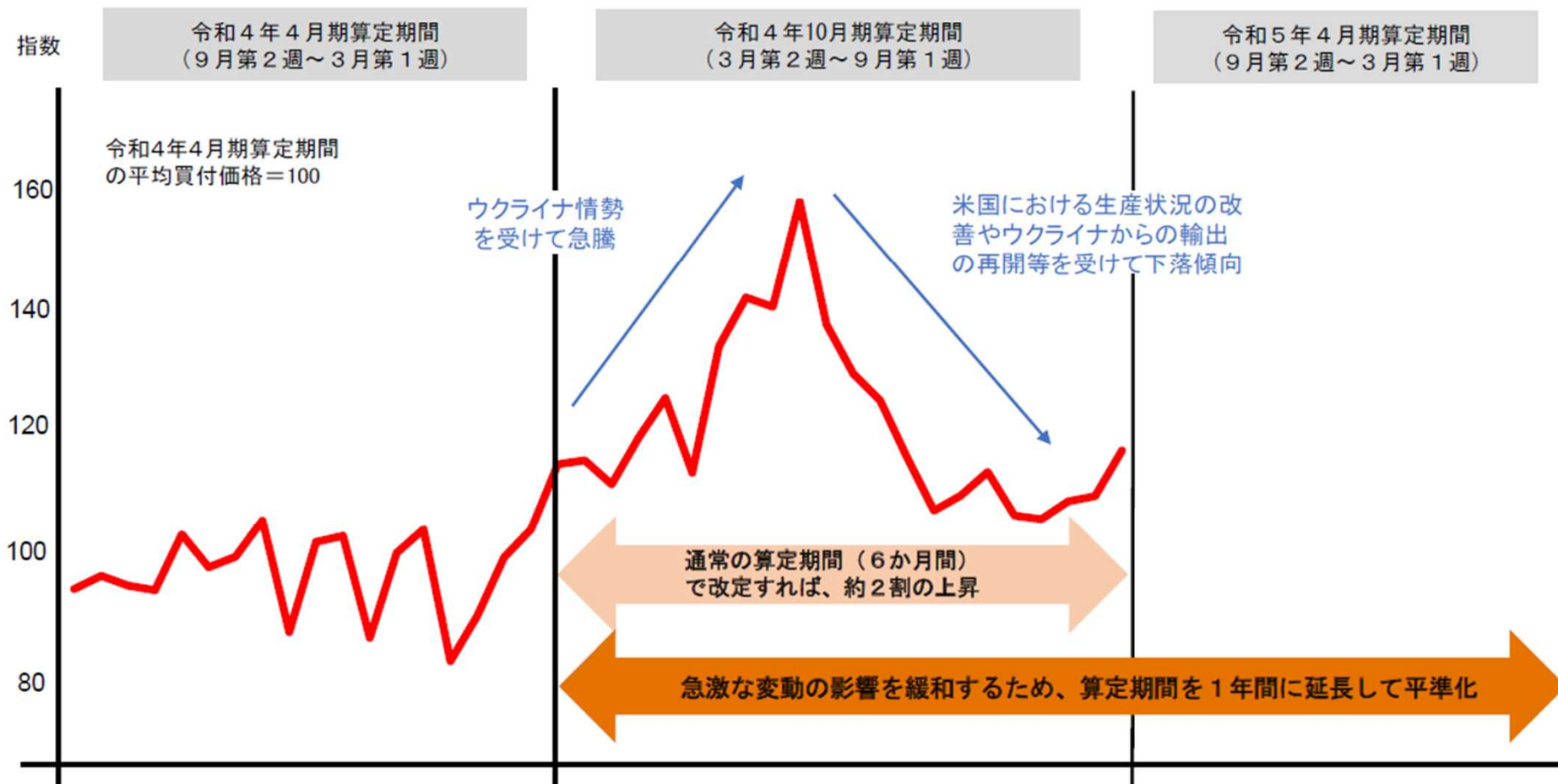
注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。

注2：グラフの左側は各年産の通年平均価格（当該年産の出回りから翌年10月まで（3年産は出回り～令和4年9月までの速報値））、右側は月ごとの価格の推移。

3 物価（食料品）の推移

(3) 小麦買付価格

ウクライナ情勢を受け、令和4年3月以降急騰したものの、6月以降は下降し、概ねウクライナ侵攻前の水準まで低下。



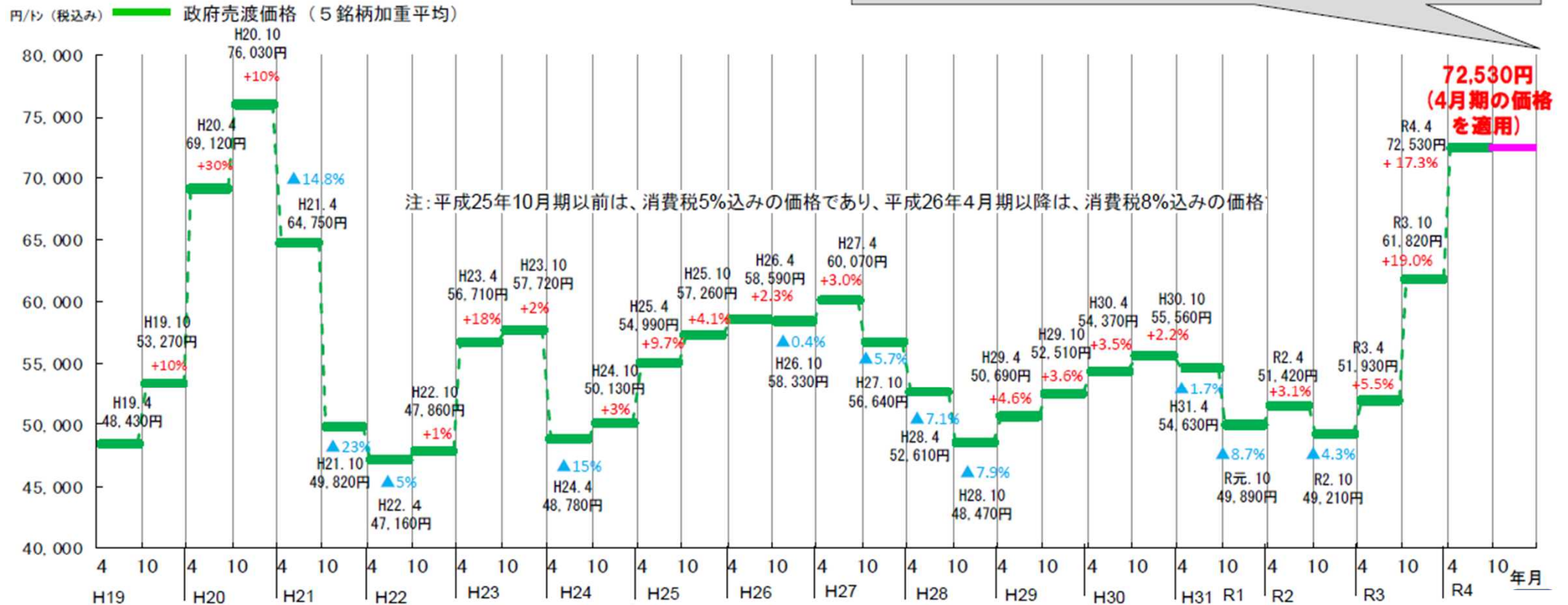
3 物価（食料品）の推移

（4）小麦の政府売り渡し価格

小麦の買付価格の高騰により、令和4年4月期は、72,530/トンで、令和3年10月期に比べ17.3%の引上げ。

【農水省(HP)】

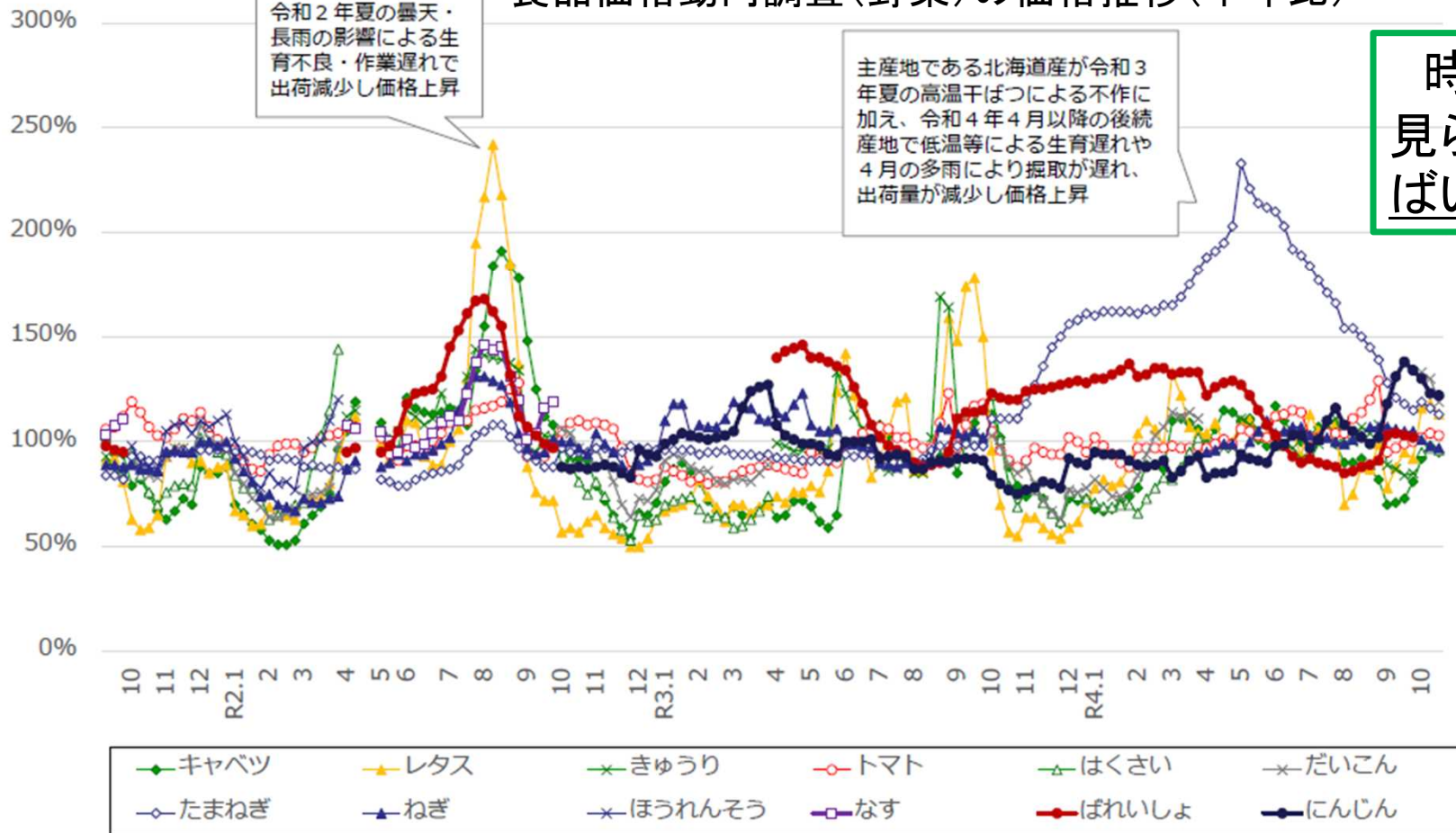
令和5年4月以降については、令和4年3月以降の1年間の買付価格を元に算定。



3 物価（食料品）の推移

（5）価格動向【野菜】

食品価格動向調査(野菜)の価格推移(平年比)

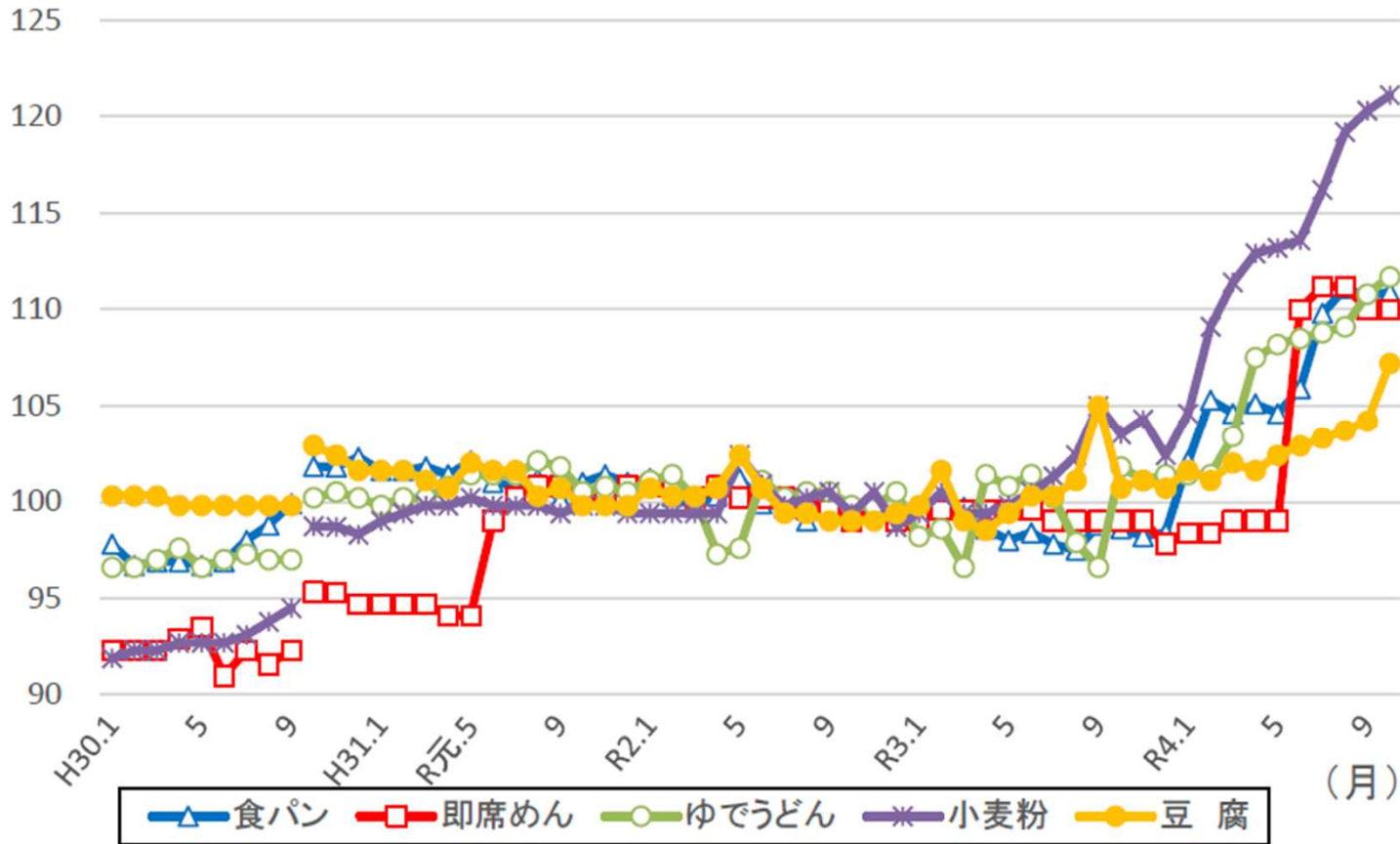


注：平年比とは、食品価格動向調査業務による調査価格の過去5カ年平均価格と比較したものである。

3 物価（食料品）の推移

（6）価格動向【加工食品（小麦・大豆加工品）】

食品価格動向調査(小麦加工品・大豆加工品)の価格推移(R2=100)



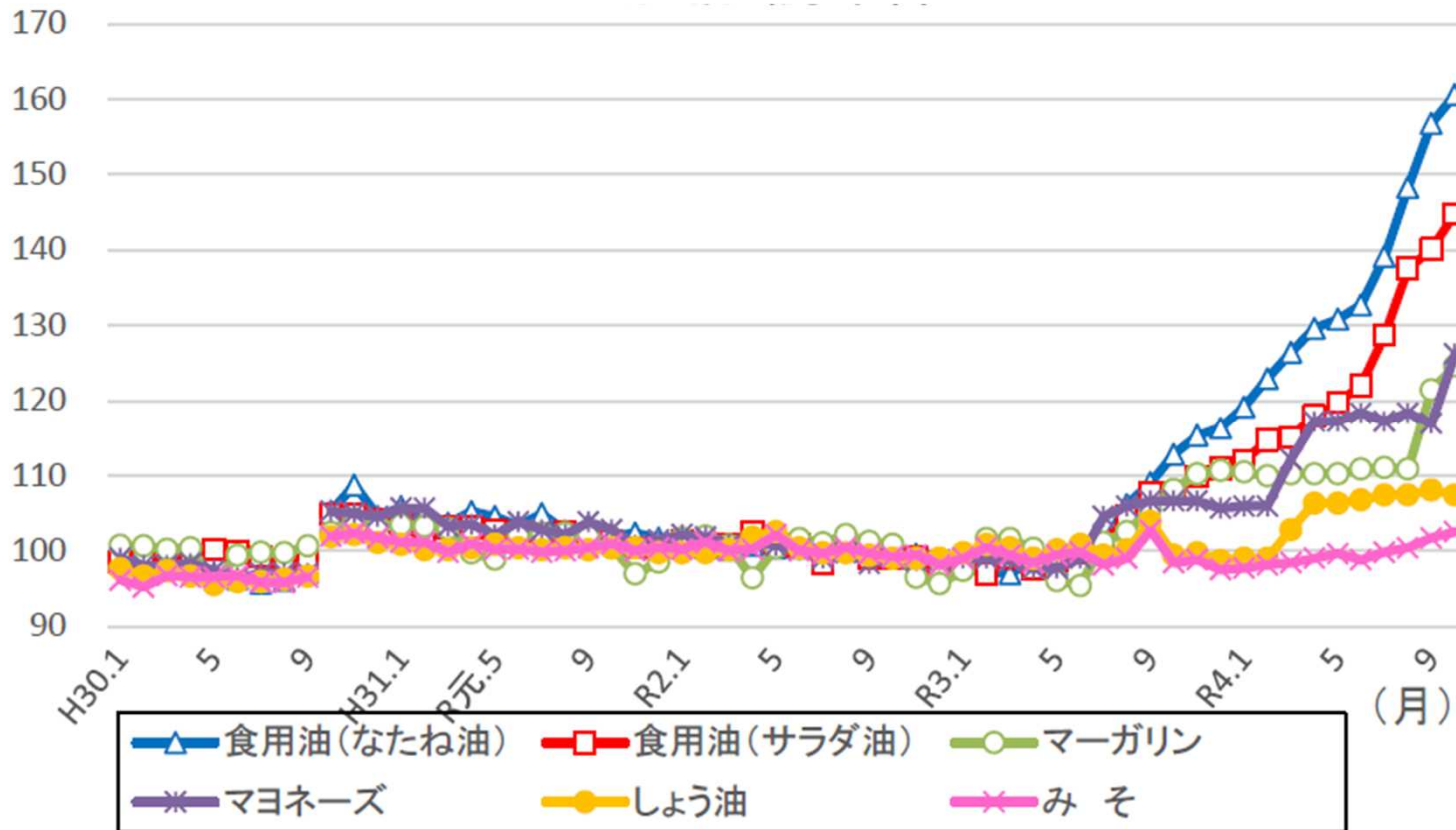
令和3年後半以降、
相次いで上昇(豆腐、
ゆでうどん、食パン、即
席めん)。

【農水省(食品価格動向調査)】

3 物価（食料品）の推移

（7）価格動向【加工食品（油脂・調味料）】

食品価格動向調査(油脂・調味料)の価格推移(R2=100)



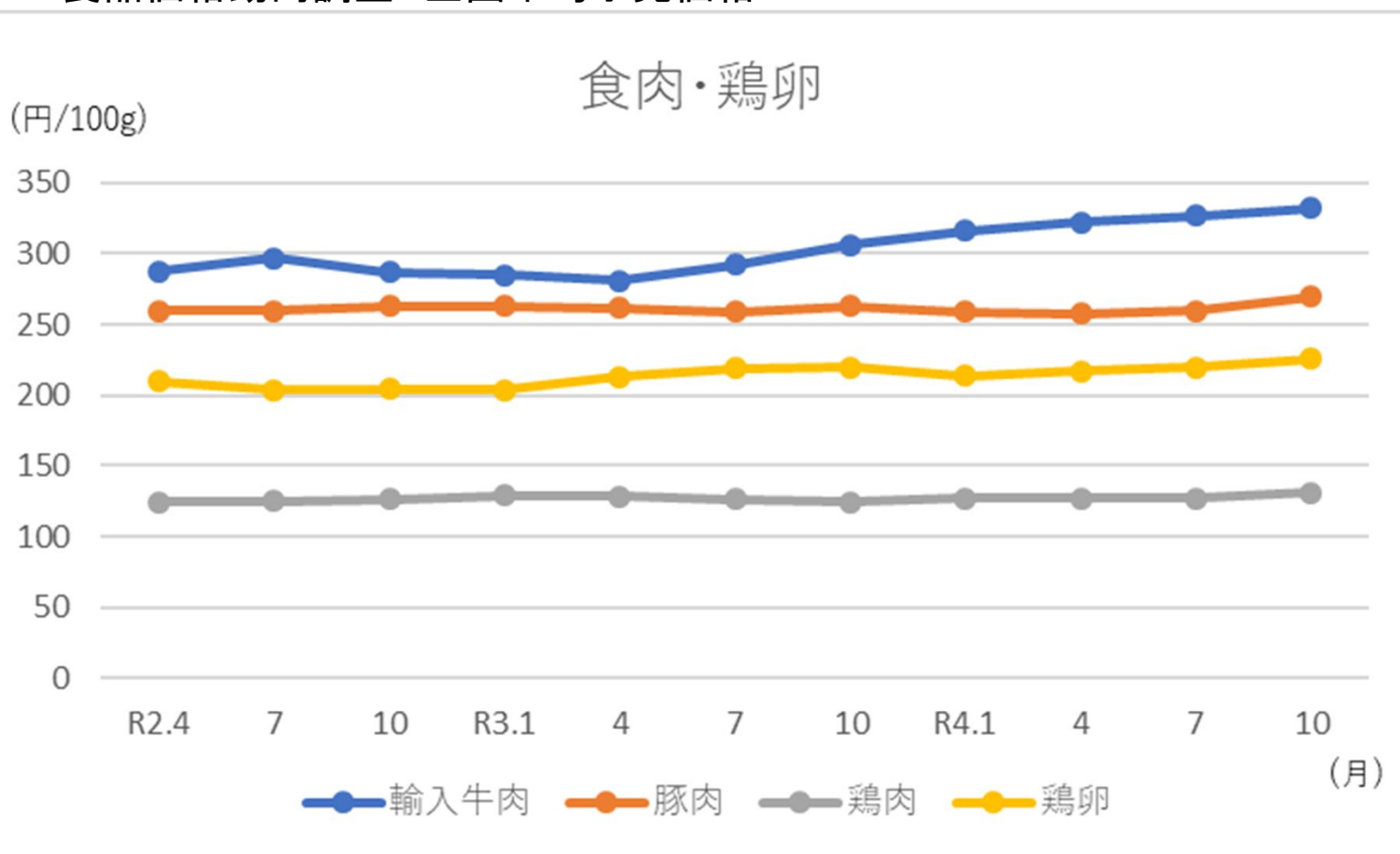
令和3年後半以降、
相次いで上昇(食用油、
マーガリン、マヨネーズ)。

【農水省(食品価格動向調査)】

3 物価（食料品）の推移

（8）価格動向【食肉・鶏卵】

食品価格動向調査 全国平均小売価格



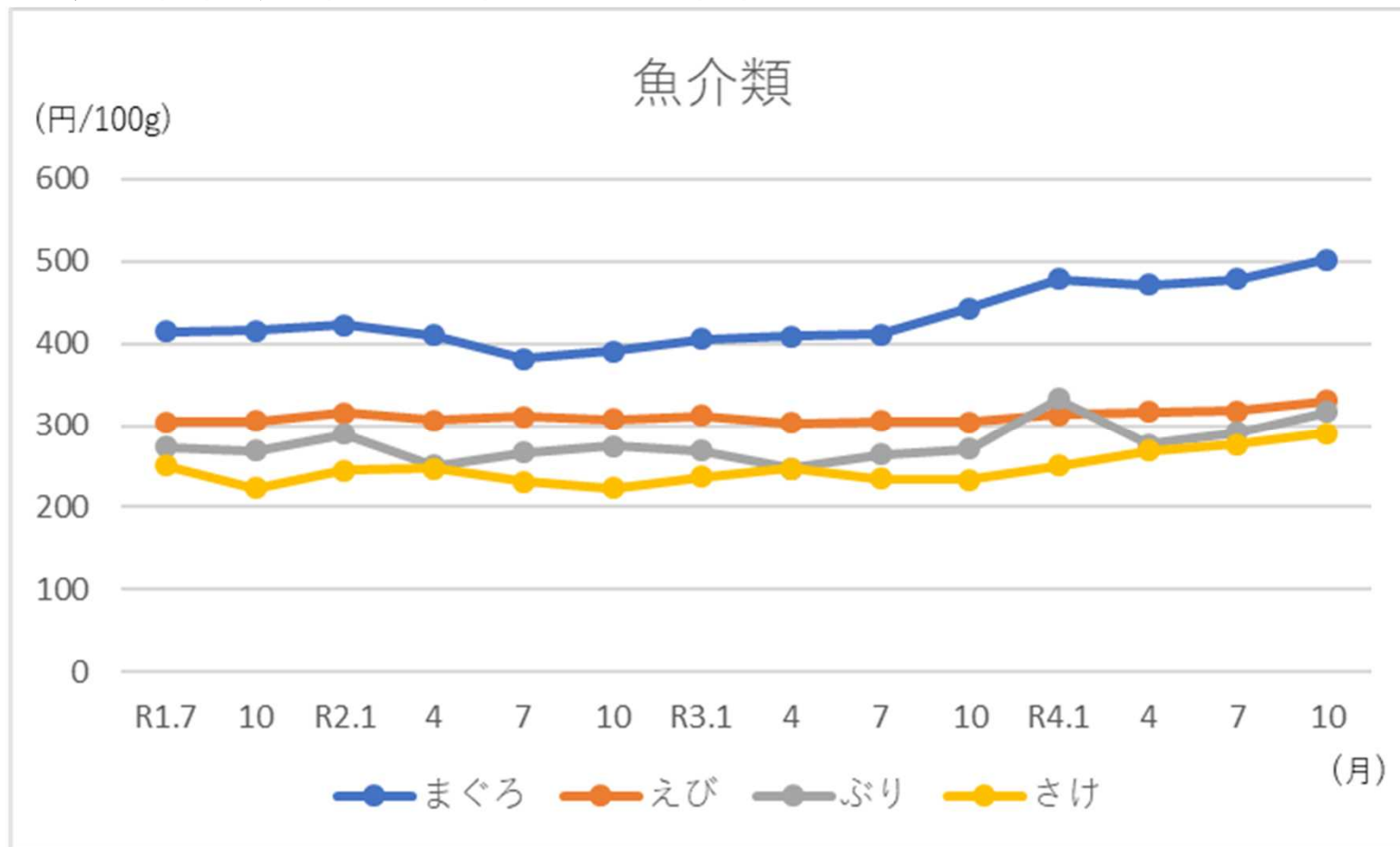
令和3年以降、輸入牛肉、鶏卵については緩やかに上昇（概ね10%程度）。
豚肉、鶏肉については、ほぼ横ばいで推移。

【農水省（食品価格動向調査）】

3 物価（食料品）の推移

（9）価格動向【魚介類】

食品価格動向調査 全国平均小売価格

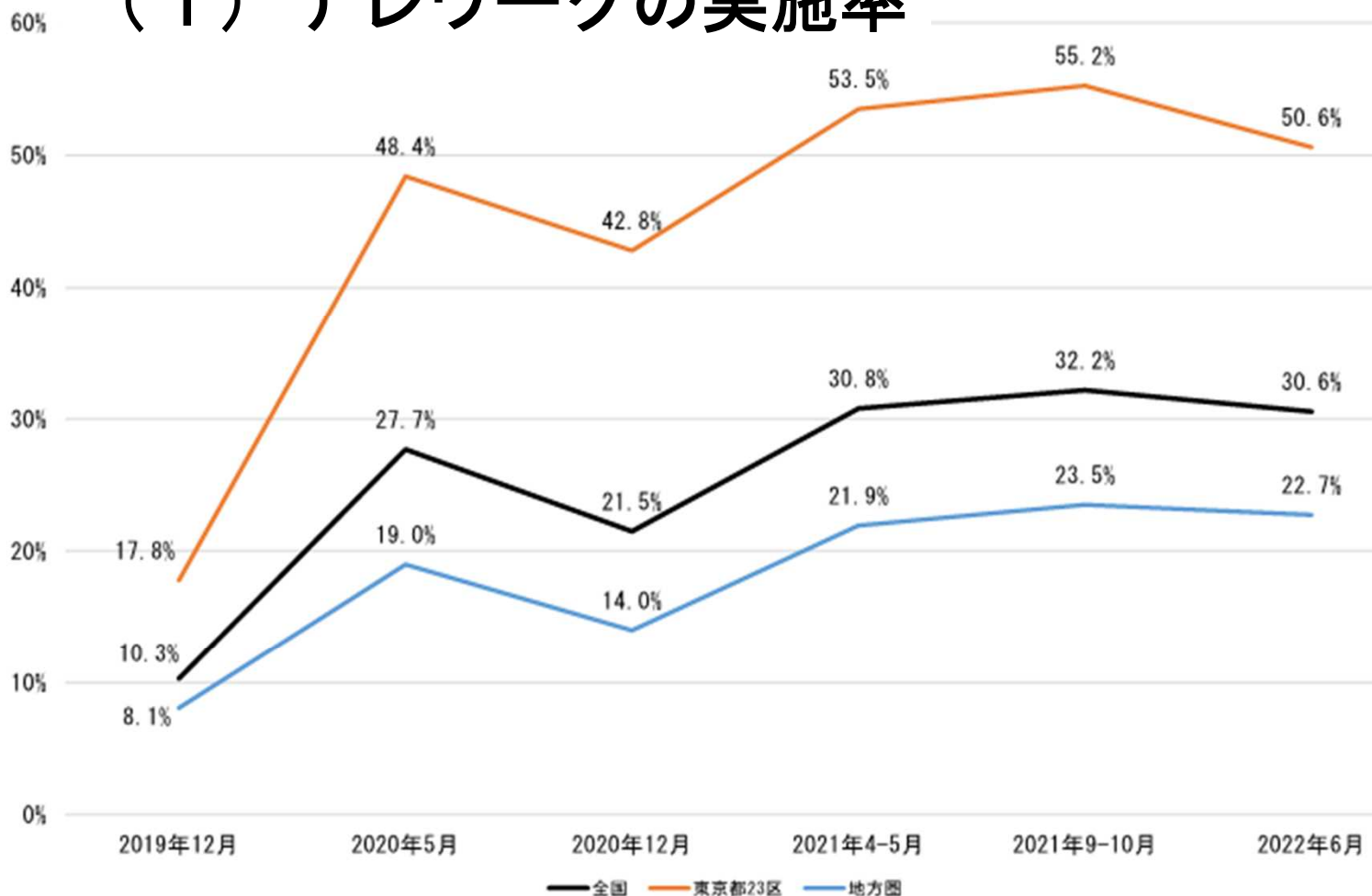


令和3年以降、
緩やかに上昇。

【農水省(食品価格動向調査)】

4 田園回帰、地方移住への動き

(1) テレワークの実施率



新型コロナウイルス感染拡大以降増加し、令和3年9-10月調査で、最高となったが、令和4年6月調査では、やや減少。

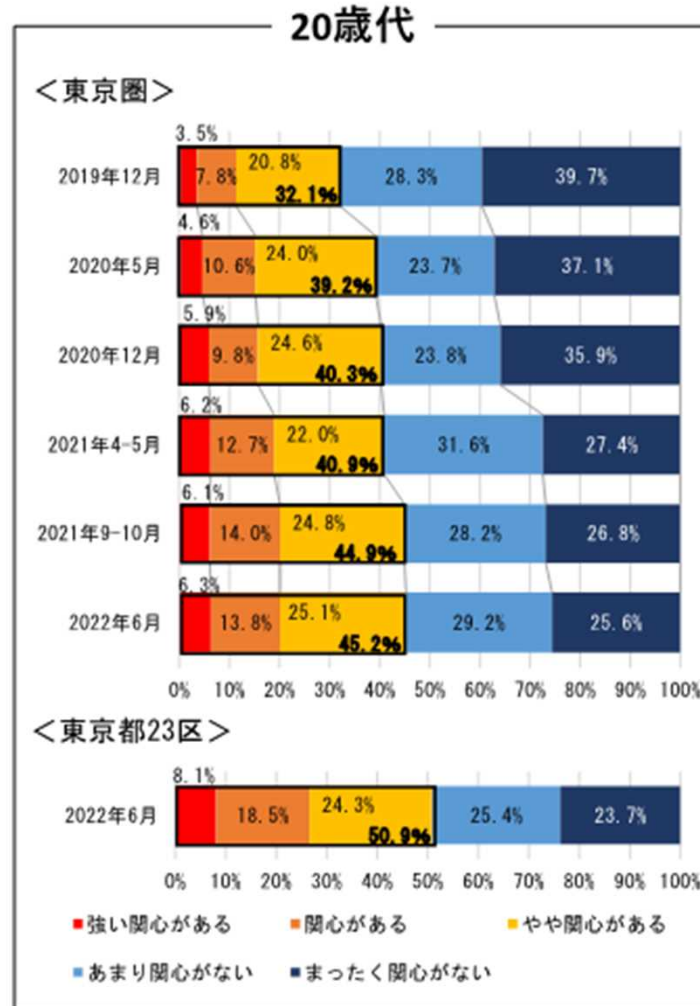
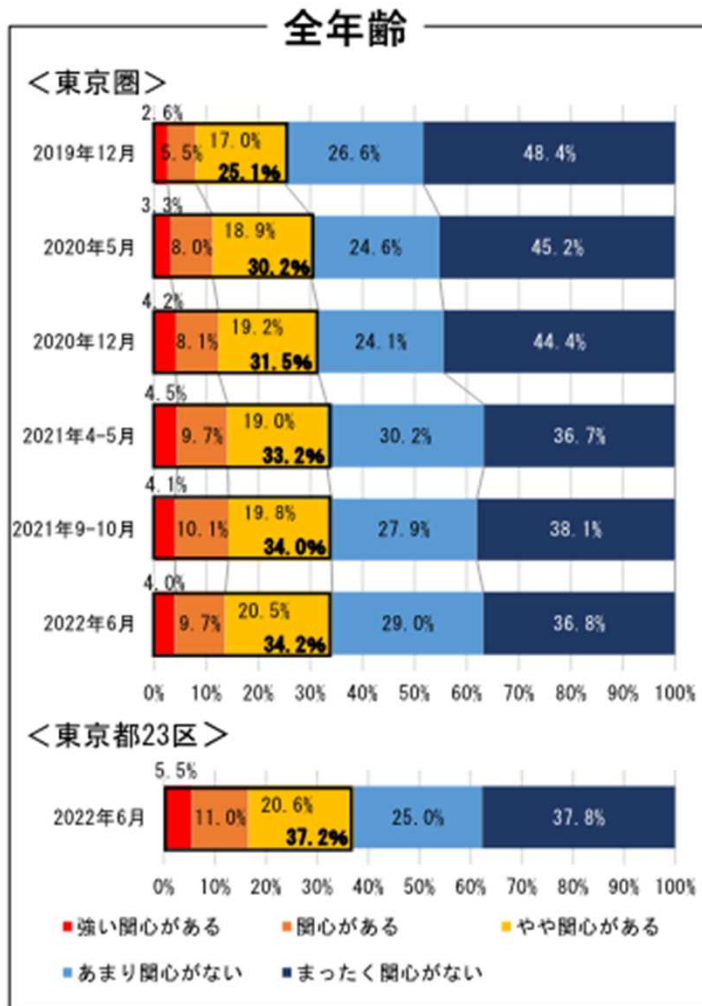
【内閣府(新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査)】

※働き方に関する問に対し、「テレワーク(ほぼ100%)」、「テレワーク中心(50%以上)で定期的にテレワークを併用」、「出勤中心(50%以上)で定期的にテレワークを併用」、「基本的に出勤だが不定期にテレワークを利用」のいずれかに回答した人の割合

4 田園回帰、地方移住への動き

(2) 地方移住への関心

(コメント挿入)



新型コロナウイルス感染拡大以降、若い世代を中心に関心が高まっている。

【内閣府(新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査)】

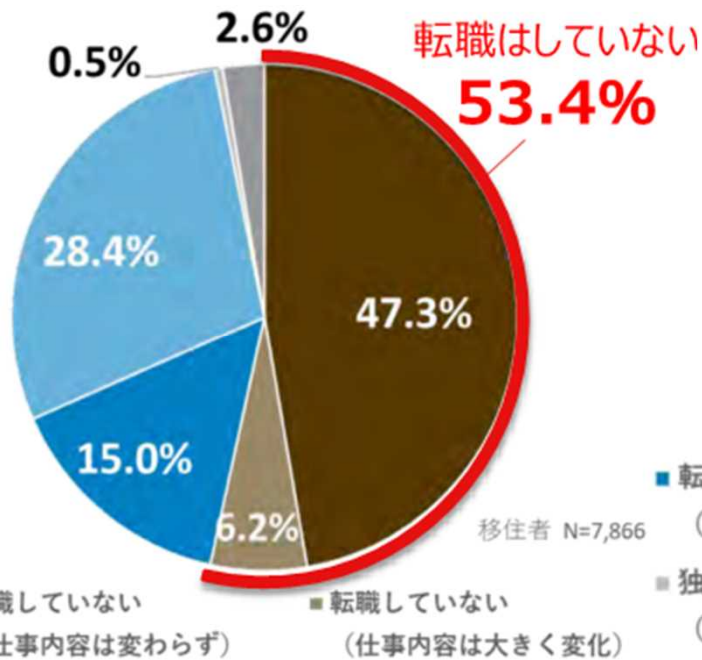
4 田園回帰、地方移住への動き

(3) 移住経験者の移住タイプ、転職・職務変更

■ 移住者が経験した移住タイプ



■ 移住に伴う転職・職務変更



移住タイプの割合は、Iターンタイプが最も多く、次いで「生まれ育った市町村」へのUターン型が多かった。

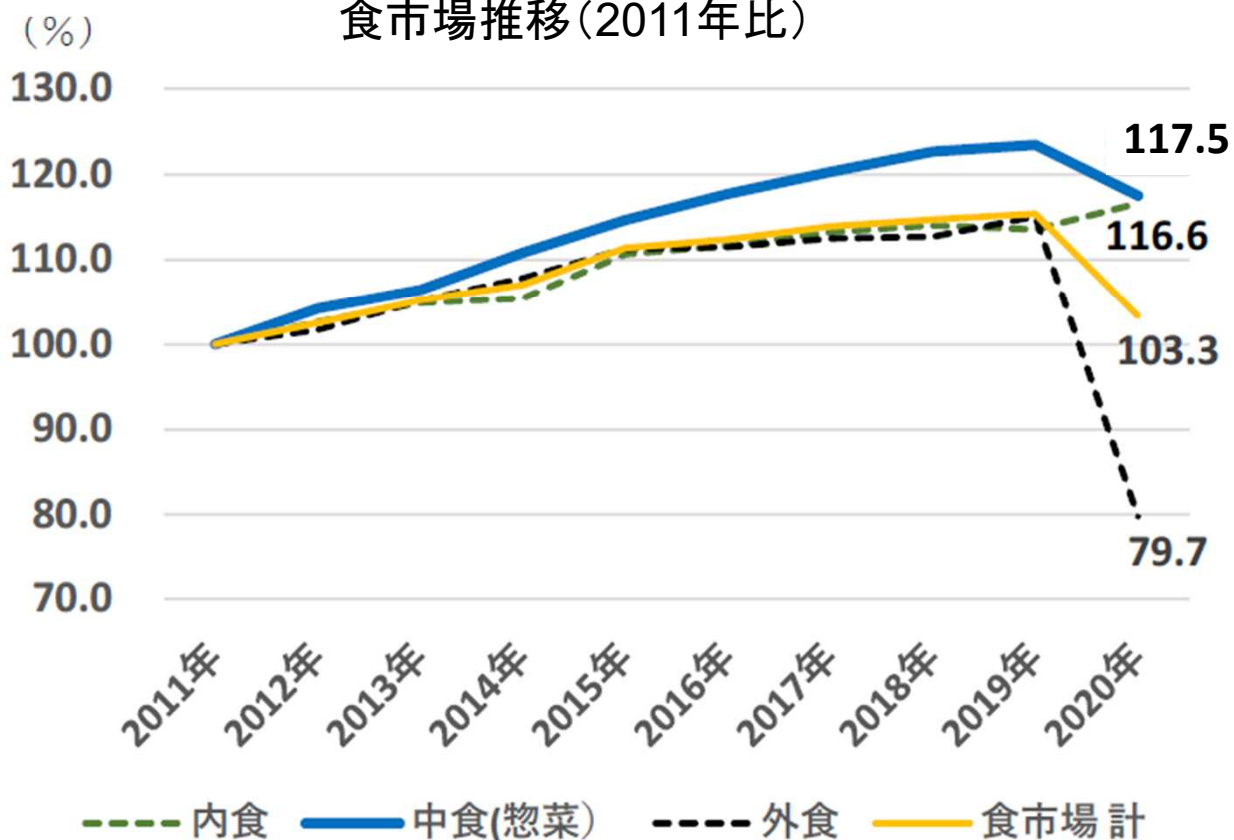
移住に際して、転職経験のない人は53.4%であり、移住＝転職ではなく、転職を伴わない移住の割合が多いことが確認された。

【パーソル総合研究所(就業者の地方移住に関する調査報告書)】

5 消費傾向の変化

(1) 内食・中食・外食の推移

食市場推移(2011年比)



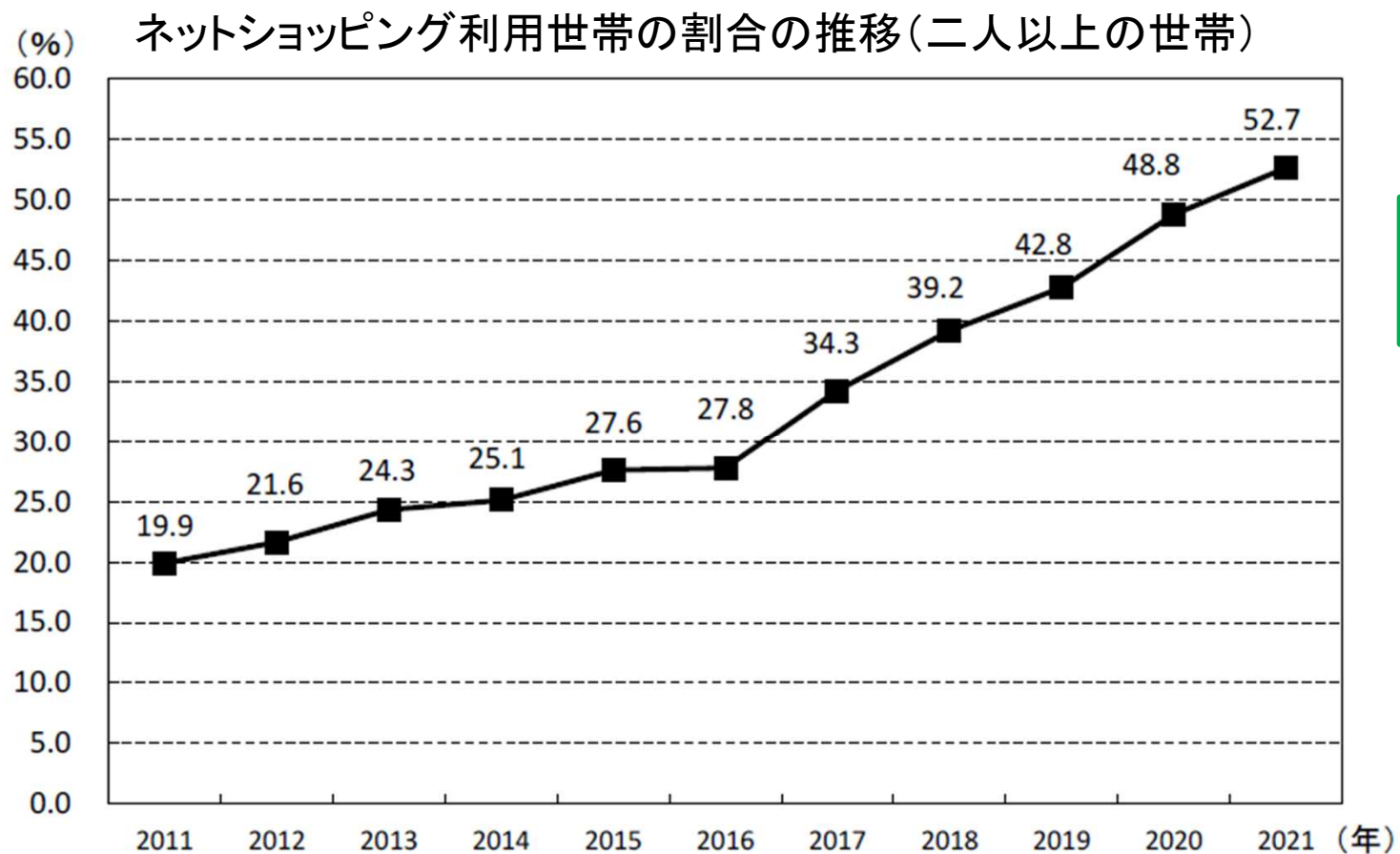
コロナ禍で食市場全体が縮小するなか、内食は継続して増加。

	内食	中食(惣菜)	外食	食市場計
2011年	31兆6,273億円	8兆3,578億円	22兆8,282億円	62兆8,133億円
2020年	36兆8,801億円	9兆8,195億円	18兆2,005億円	64兆9,001億円
11年-20年比	116.6%	117.5%	79.7%	103.3%

※発刊時点で2021年外食市場規模(7月頃)及び内閣府「国民経済計算」2021年分統計(12月頃)が未発表のため、2020年数値で比較

5 消費傾向の変化

(2) ネット販売利用世帯割合の推移



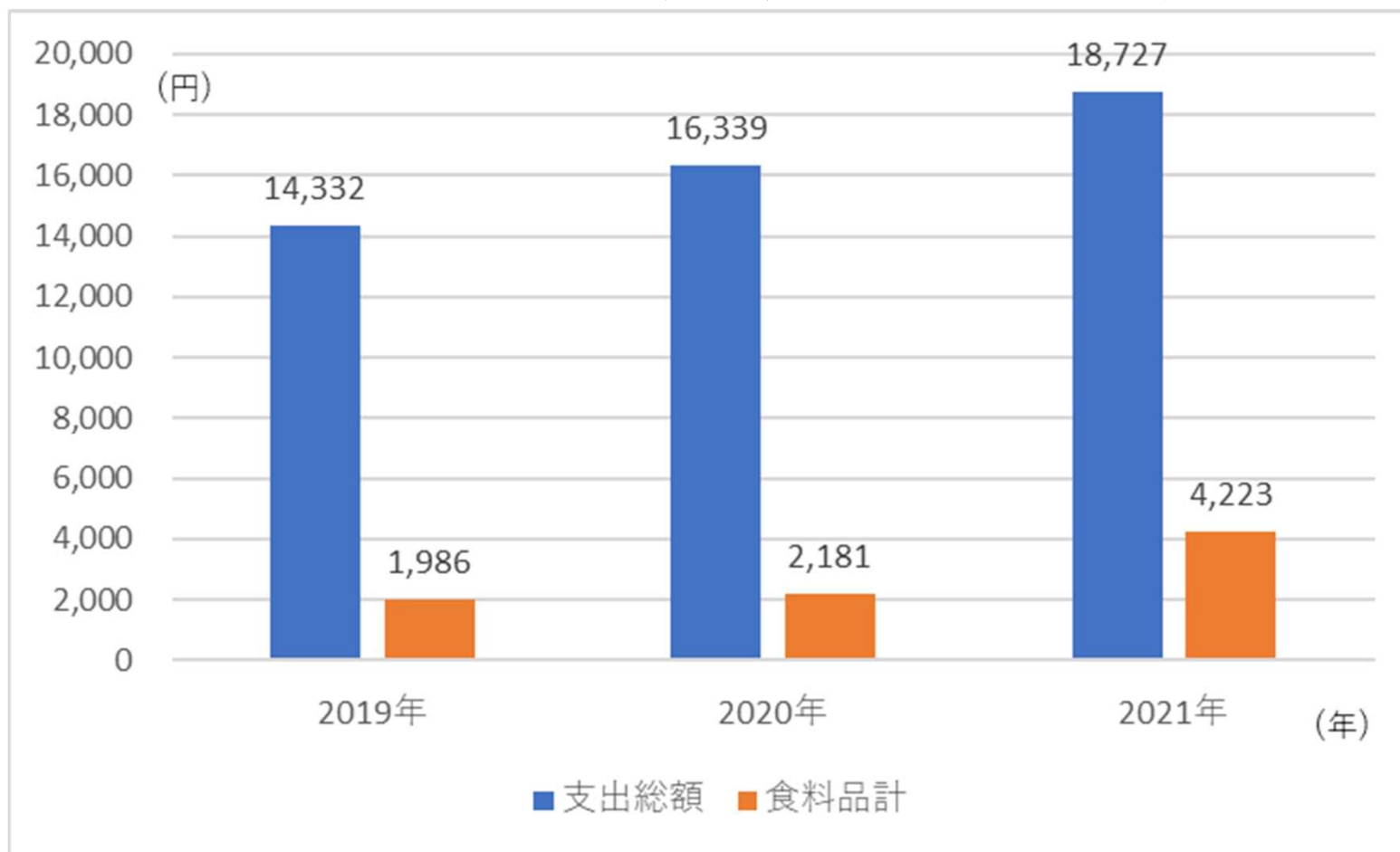
年々増加し、令和3年に初めて50%を超えた。

【総務省(家計消費状況調査)】

5 消費傾向の変化

(3) ネット販売額の推移

インターネットを利用した支出総額と内食料品の比較(1ヶ月あたり)

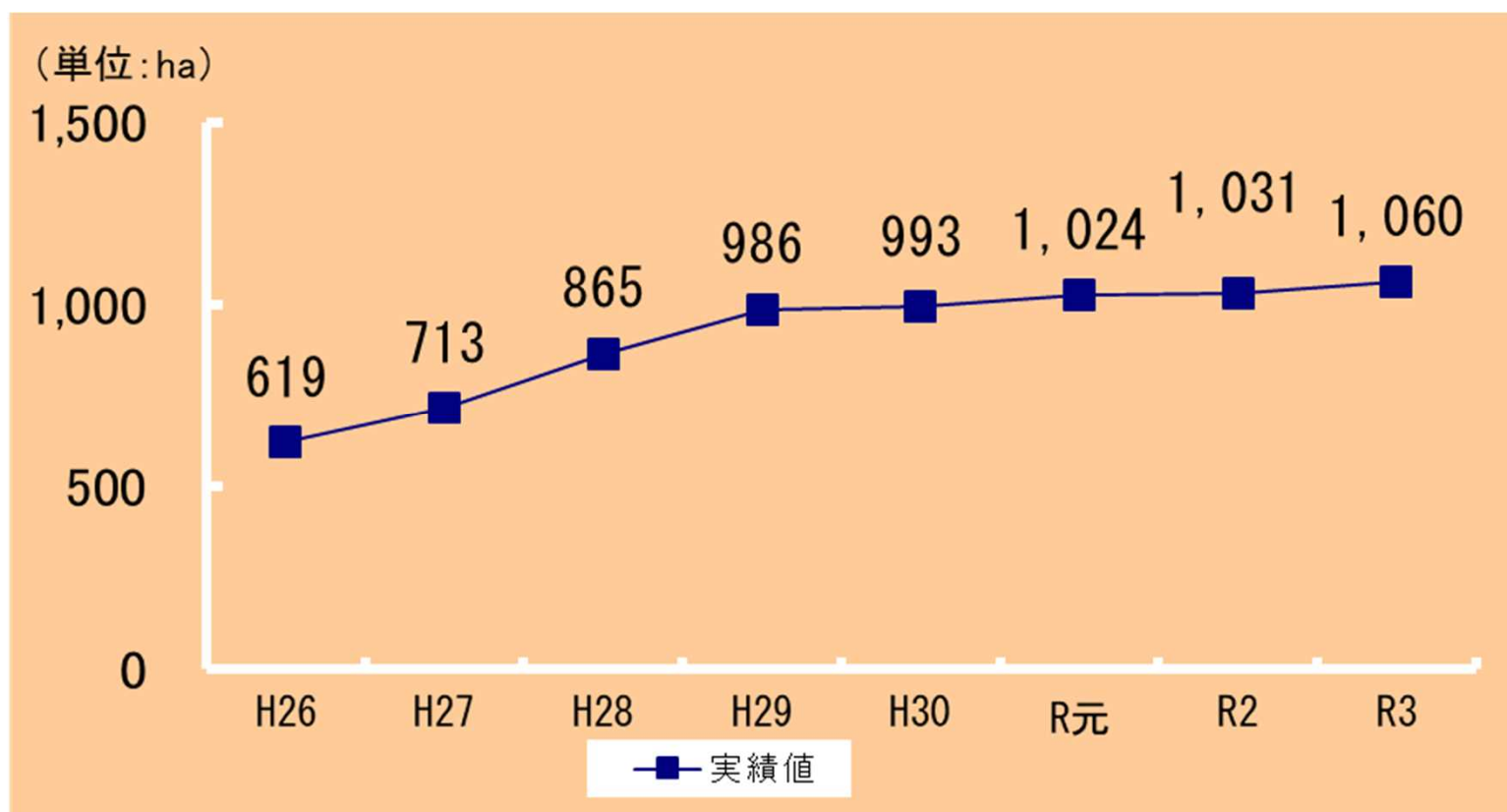


支出総額は年々増加し、その中でも食料品の占める割合が増加。

【総務省(家計消費状況調査)】

6 有機農業、環境創造型農業の実施状況

(1) 有機農業実施面積（兵庫県）の推移



毎年着実に増加。

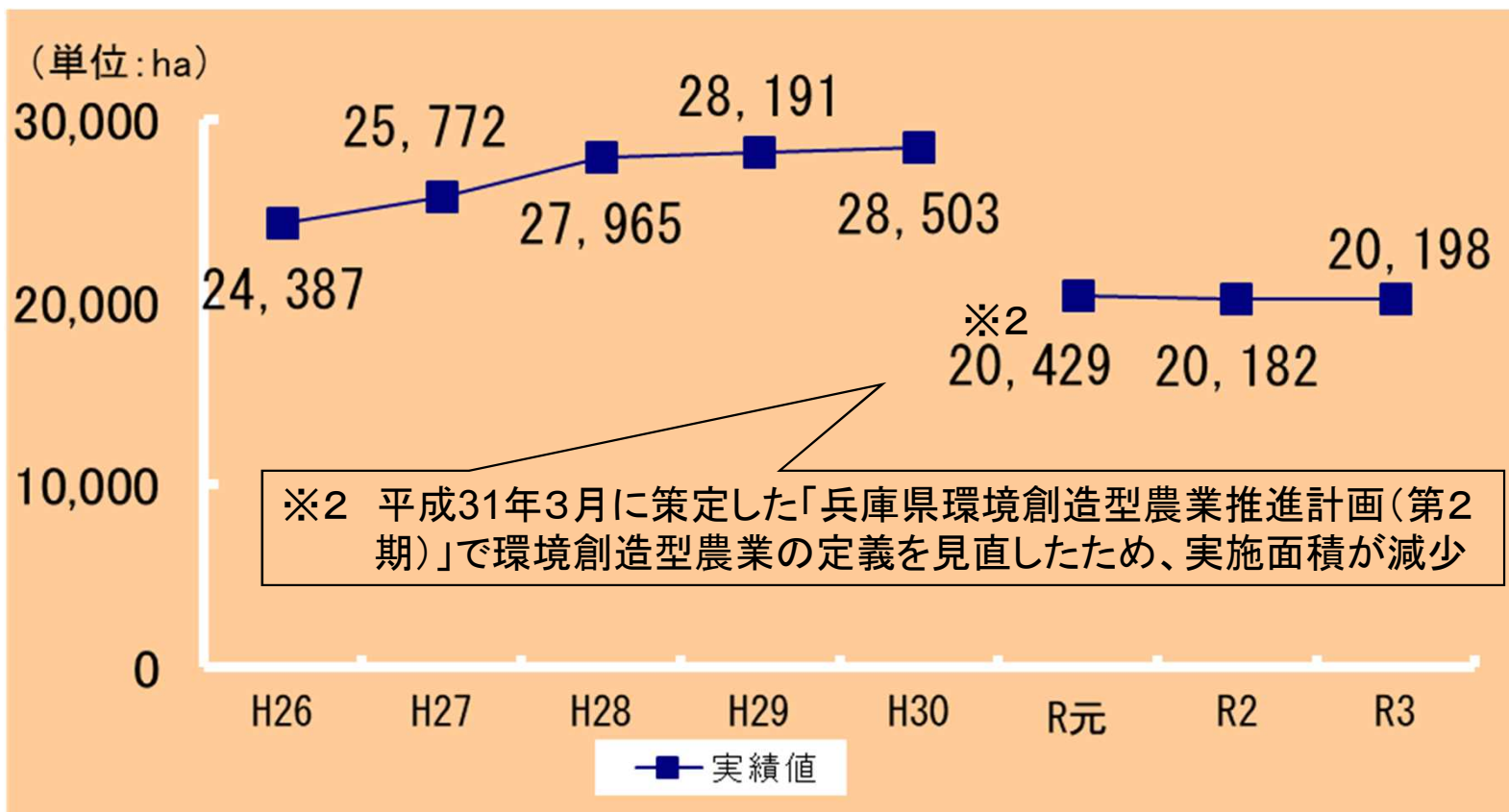
【参考】
兵庫県耕地面積72,800ha (R3)

【兵庫県調べ】

6 有機農業、環境創造型農業の実施状況

(2) 環境創造型農業※1 実施面積（兵庫県）の推移

※1 環境創造型農業：有機質資材の投入による「土づくり技術」を基本に、化学肥料や化学合成農薬に過度に依存しない「化学肥料低減技術」と「化学合成農薬低減技術」を加えた3技術を同時に導入する持続的な農業生産方式



近年横ばい。

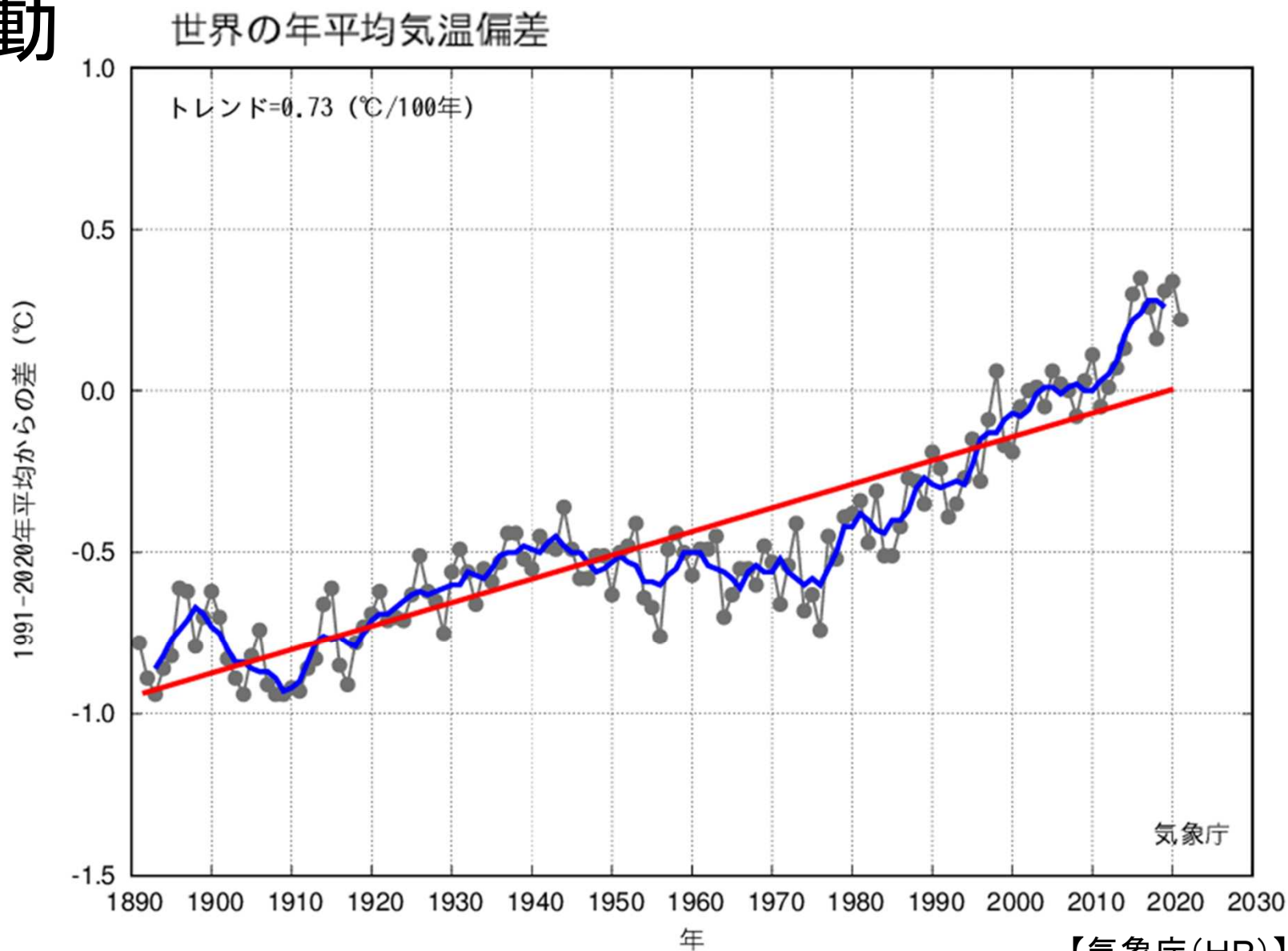
【参考】
兵庫県耕地面積72,800ha(R3)

【兵庫県調べ】

7 気候変動

(1) 気温上昇

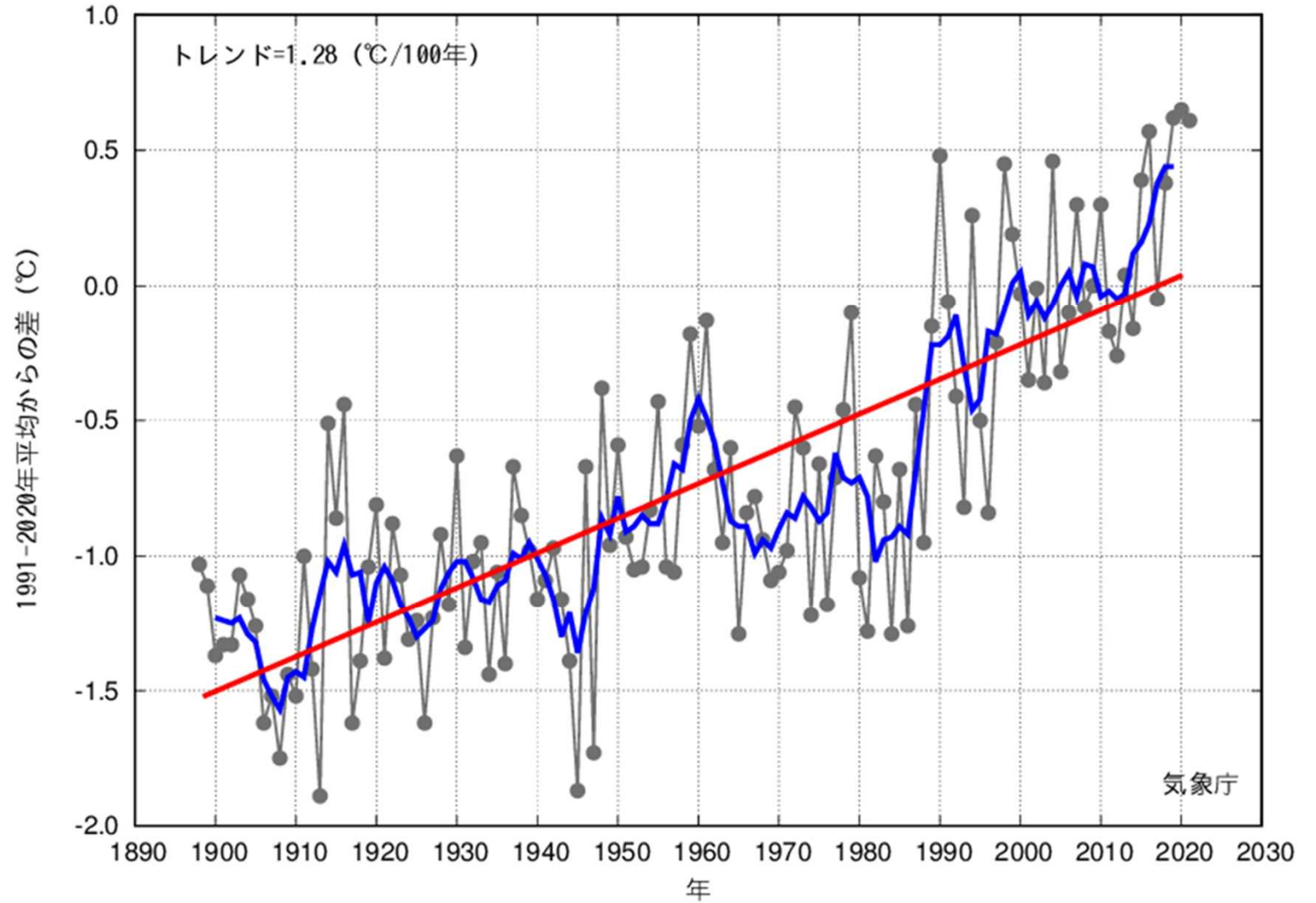
世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、100年あたり 0.73°Cの割合で上昇。



【気象庁(HP)】

日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、世界平均を上回る100年あたり1.28°Cの割合で上昇（世界：0.73°C上昇）。

日本の年平均気温偏差



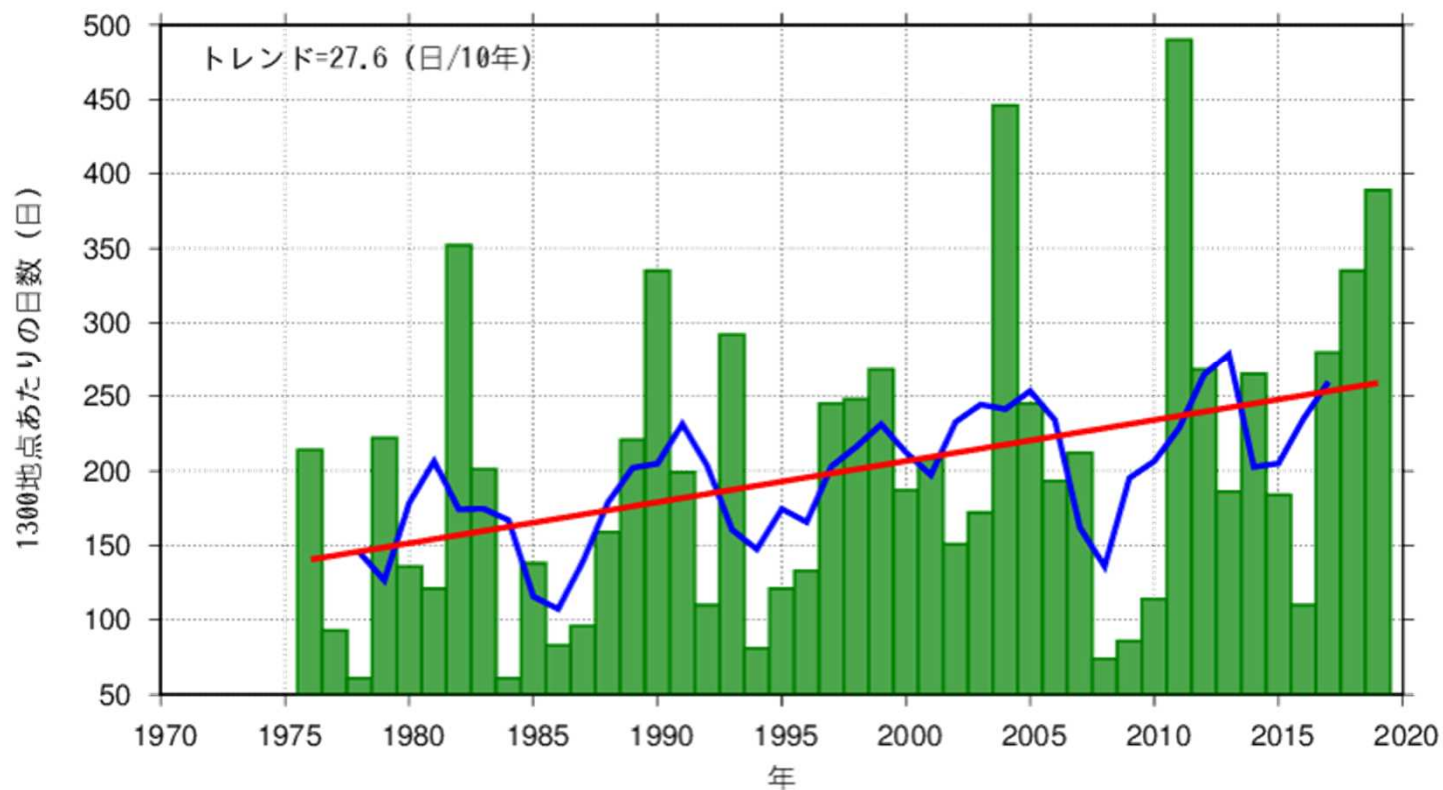
【気象庁(HP)】

7 気候変動

(2) 日降水量200mm以上の年間日数

直近10年間(2012年~2021年)の全国の日降水量200mm以上の日数は、統計期間の最初の10年間(1976~1985年)約1.5倍に増加(約160日/年⇒約246日/年)。

[アメダス] 日降水量200mm以上の年間日数



【気象庁(HP)】